

平成29年度 第5回 海老名市社会教育委員会会議内容

日時：平成30年1月26日（金）

15：00～17：00

場所：海老名市役所7階703会議室

【出席者】

委員	植松慶子、梅田眞司、栗山明郎、櫻井篤、三部雅世、多久島勲、前野佳三、森田壽、山田信江
事務局	伊藤教育長、岡田部長、金指次長、小林課長、西海主幹、小藪副主幹、谷田主事

【議事】

(1) 社会教育計画について  
事務局より説明

委員：「生涯学習との連携」について。「文化スポーツ事業」があるが、体育協会では駅伝、低学年の運動能力測定がある。文化スポーツ事業に関しての連携は今後も考えていくのか。

事務局：「社会教育計画」に記載の事業についても連携していく。

委員：地域の中で子どもたちを育てることにに関しては、少年少女スポーツを取り入れるのが良いと思う。

事務局：各小学校の校庭を少年野球のチーム等が利用している。

委員：今後も連携の流れをしっかりとってほしい。

委員：「えびなっ子まつり」で三川公園で凧揚げを行う。伝統文化についても子どもたちを通じて引き継いでほしい。

事務局：「えびなっ子スクール」で文団連に太鼓を教えて頂いている。

委員：文団連としてもやりたいという希望はある。

委員：文化事業は他にも、「えびなっ子将棋名人戦」と「凧揚げ」、囃子や太鼓等がある。

事務局：社会教育計画へ反映したい。

委員：PTA 活動や家庭・地域に関する事業について。保護者の就業体制が多様化しているので、中学校区ごとに行う形、夜や土日に行うという形を検討していただきたい。

事務局：ご意見として承り参考にさせて頂く。

委員：「文化財事業」について。古墳群について答申が出てしばらくたつが、どうなったのか。

事務局：所管課で改正の作業を進めている。

委員：個人所有なので難しいと思うが、進捗状況、途中経過をだしてほしい。

事務局：財源的な問題や人的な問題等いくつかの要因があり、検討には入っているが具体的な手立てを講ずるところまではいっていないのが実情である。現状では、海老名では開発で土地の動きがあり、鎌倉市でも報道されていたが、調査を相当数するが報告書に結びついていないということがある。文化財の利活用として「相模国分寺まつり」等についても新規事業として行っている。作業は進めているが、なかなか遅々として進まないというのが実情である。

委員：何年後にはこうしようというような考えはないのか。

事務局：相模国分寺は表示を全部かえたり、駐車場を整備したりして、皆さんに楽しめるようにしている。秋葉山もどのように整備して皆さんに楽しんで頂くかという計画を作っている。

委員：国の指定史跡なので大事にしてほしい。ハイキングコースにもなっていて見学者も非常に多い。皆さんにみてほしい。

## (2) コミュニティスクールについて

東柏ケ谷小学校校長、教諭、学校運営協議会委員（CS委員）から運営状況の報告

委員：「CSだより」について。地域の方には回覧板でお知らせしているのか。

CS委員：地域の方をお願いして回覧板に入れて頂いている。保護者の方には子どもを通じて配布している。

委員：私の地域では、学校だよりがよく入ってくるが、そのような形で回覧しているのか。

CS委員：学校だよりとは別に発行している。

委員：どれ位の頻度で発行しているか。

CS委員：2、3か月に一度程度発行している。

委員：地域の方はよく読んでいる様子か。

CS委員：はい。学校運営協議会の議事録も本校のHPに載せている。見て頂けると有難い。

委員：コミュニティスクールを立ち上げる場合、コーディネーターの役割が重要だと思う。最初は校長が集められたようだが、他の先生では大変なのでは。

CS委員：私は地域に恵まれた。その地域でネットワークを作っていくのが、校長のこれからの一つの資質だと思う。地域とつながるのは校長だけでなく、職員も地域とのつながりが必要。

委員：コーディネーターは、1人ではなく、運営協議会のメンバーがやるのか。

CS委員：運営協議会にコーディネーターが2人いる。今は1人という状態。その他に運営協議会から直接、自治会長さんや運営協議会の委員の方にもお願いすることもある。

委員：運営協議会で話し合った結果を「CSだより」に掲載している。こういうことをやりたいので、できる人はお願いしますというお願い事を載せ、地域の方の力を得ているのか。それとも、学校に登録している人材、団体を中心にお願いするのか。

CS委員：小学校区の役員が学校の教室を借り、校長先生やPTAの会長さん、各種団体の方が集まり、その中で各種団体がどのような活動をしているか、すり合わせしたり協力し合ったりする状態が脈々と続いている。コミュニティスクールは、学校を運営する為に地域の方がどのような協力体制をとれるか、または、子どもに対して地域の方はどう育ててほしいと思っているかということ、学校と地域が一緒になって考えていきたいと思いますということである。役員をどうやって決めたら良いかというのは大変かもしれないが、そこも話し合いの中でうまくまとめている。

CS委員：4月最初の学校運営協議会で、その年度の学校の活動について投げ掛ける。例えば、「絵手紙」では講師がある程度限られてくるのでコーディネーターが直接その方にお願いする。2年生の「電車で行こう」では、子どもたちの引率をしてほしい、人数がほしい、という時に学校運営協議会にでていた団体の方がその団体のメンバーにその旨を伝え協力してくれる人を集約し、学校に伝えてくれる。活動の内容、必要な人数によって声のかけ方がかわる。幅広い活動の時には、コーディネーターだけでなく出席している委員の方に各団体に伝えて頂く。

委員：基本的に学校運営協議会に入っている人の団体が中心になるのか。

CS委員：基本的にはそうである。

CS委員：PTAやCS加入団体が、4月に活動リストが出れば協力すると言ってくれているので、4月には年度すべての活動を出し協力をお願いしている。

委員：学校運営協議会の生の声を聞かせてもらえて良かった。人が大事。

CS委員：地域に恵まれている。協力してくれた人が「やって良かった。」「元気をもらった。」と言ってくれる。

委員：話が通じ合うのが良い。心配なのは、校長や担当職員がかわること、自治会長がかわること。コミュニティスクールは校長や自治会長がかわっても次の代に引き継がなければいけない。人がかわった時に、「日付だけ

かえてやれば良い」という気持ちができることを危惧する。コミュニティスクールはその年の特色が必要。教育は、一年一年どうしたら良いか考えることが大切だから、役員がかわってもコミュニティスクールは向上していける状態をつくることが大切。

CS委員：学校運営協議会は、校長が主で進めていくものではなく、地域の方と一緒に子どもたちのことを考えていくもの。担当を育てていくことが大事で、そう努めている。貴重なご意見として、しっかりやっつけていかなければならない。

委員：もう少し予算をつけてもらって、続けていけるようにしてほしい。

CS委員：コミュニティスクールという、地域の人達が集まる力は凄いと思う。お金ではない。やる気を起こさせる。関わられて幸せだと思っている。育っていく子どもの少しでも役に立てることは有難い。

CS委員：協力してくださる地域の方々は、子どもから笑顔をもたらしたと言って帰っていかれる。報酬は子どもの笑顔。お金ではない。皆さんもそうだと思う。子どもたちのためにという気持ちでやって下さる。子どもたちのためにやってやろう、先生を応援しようという気持ちでやって下さる。大変ありがたい。

CS委員：活動に協力したことで、子どもたちが懐いてくれて、活動する中で元気をもらった。良い事をしたなという気持ち。それが報酬。協力して良かったと思う。

委員：コミュニティスクールに関して素晴らしい話を聞かせてもらった。成果があれば課題もあると思うが、各学校で進められていけると良いと思う。子どもの笑顔、「ありがとう」の言葉に、私たちも元気をもらえと思う。

### (3) その他

教育委員会の移転案内

◇終了